

令和5年度第3回江別市経済審議会会議録（要旨）

日時	令和5年10月24日（火）15:00～16:00
場所	江別市中央公民館 研修室2・3号
出席者(12)名	会長/井上誠司 副会長/藤本直樹 委員/伊藤環、千葉幸子、中野亮二、佐々木尚弘、杉野邦彦、奥村幸広、青山孝広、西純一、岡村恵子、光永大希
事務局(11)名	経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、農業振興課長、商工労働課主査、農業振興課係長（3名）、ほか2名
欠席者(5)名	委員/森邦恵、鈴木貢、岸本佳廣、若狭洸介、小原愛香
傍聴者(0)名	—
議事事項	(1) 報告事項 第2次江別市観光振興計画策定の進捗状況について (2) 協議事項 第5次江別市農業振興計画の策定について

会議録

会長	開会のことば
会長	会議成立報告
会長	議事を進行いたします。次第1（1）の報告事項「第2次江別市観光振興計画策定の進捗状況について」事務局より説明願います。
観光振興課長	<p>「第2次江別市観光振興計画策定の進捗状況について」報告します。</p> <p>「1これまでの経緯」ですが、第1回策定委員会を令和5年8月、第2回策定委員会を令和5年10月に実施しております。またその間に、市民アンケート及び事業所ヒアリングを実施いたしました。</p> <p>「2観光振興における課題」については、策定委員会、市民アンケート、事業所ヒアリングを通してご意見をいただきました。（2）計画周知の徹底とターゲット・目標設定の明確化については、第1次計画が周知不足ではないかというご意見とターゲット・目標が曖昧なまま事業を進めてしまったのではないかと反省を踏まえて、第2次計画に生かしてまいります。</p> <p>「3次期計画の骨子（案）」ですが、こちらはターゲット層を3つに分け、それぞれアプローチ目標、アプローチ戦略、基本施策をぶら下げる形となっております。</p> <p>「4今後のスケジュール（予定）」については、10月31日に第3回策定委員会を予定しており、次期計画の素案を報告予定です。その後は令和5年12月から令和6年1月までパブリックコメントを実施し、令和6年1月の第4回策定委員会において次期計画の最終報告をする予定です。なお、第4回経済審議会も令和6年1月頃の開催予定と聞いておりますので、そこで状況の報告をさせていただきたいと考えております。</p>

会長	只今の説明に対して、ご質問やご意見等ございましたら、お受けしたいと思います。
伊藤委員	神奈川県厚木市では、芸能人や旅行ガイドブック「るるぶ」さんを活用したPRを行っているそうです。江別市でも同様の取組はできないのでしょうか。
観光振興課長	芸能人の方を活用したPRについては、営業の方にお話を伺っており、芸能人のランクによる金額の違い等を参考にさせていただいているところです。 また「じゃらん」さんには、市の観光協会から情報提供を行っておりまして、PR効果があると聞いておりますので、そういった取組も進めていきたいと思っております。
伊藤委員	市民の方の目の届くところに、誰でも見られるように、冊子等をご用意いただけたらと思います。
会長	その他ご意見、何かございますでしょうか。
杉野委員	お話のあった「るるぶ」さんはコロナ禍で観光事業の出版物の需要がなくなった中、企業と提携して会社の案内を作成していました。会社の説明だけでなく、周辺のグルメや観光地を記載する等そこで働きたいと思わせる工夫をし、就職活動等に活用されています。 人の心を掴むノウハウを持っている「るるぶ」さんのようなプロに江別市を見ていただくことで、江別市のPRに活用できるのではないかと思います。
会長	ノウハウを持った企業との連携が可能ではないかというご意見だったかと思っております。 また、芸能人の活用のお話も出ましたが、江別市はノーベル賞受賞者、直木賞作家、元オリンピック選手等、芸能人以外にも有名人がたくさんいて、人材の宝庫だと思います。可能な限りそういった方々にアンバサダーとなって市をPRしていただくのも1つの手法ではないかと思っております。
会長	観光振興計画策定委員会の委員長を務めていらっしゃる藤本委員、ご意見ございますか。
副会長	私は観光振興計画策定委員会の委員長を務めておりますので、先ほどの観光振興課長から説明のあった進捗状況について、4点ほど補足したいと思います。 1点目は、第1次観光振興計画がコロナの影響もあり、なかなか実現できなかったことも多々ありますので、第2次観光振興計画においても基本方針はあまり大きくは変えないということです。 2点目は、市長の交代や第7次となる総合計画の更新に伴い、新市長のビジョンである「食や農を生かした日常生活の中にある観光」というコンセプトや上位計画となる総合計画と整合を図りながら、現状に合わせたアップデートをしていくということです。 3点目は、計画を作りっぱなしではなく、第1次観光振興計画の進行状況や課題をしっかりと検証しているということです。 4点目は、事務局のコンサルティングをさせていただいている方の経営学的な視点を活用し、10月31日の第3回策定委員会にて肉付けされたものについて審議する予定です。芸能人の扱いや民間事業所の固有名詞をどこまで記載できるかという難しさはありますが、委員の総意として情報の発信不足、様々な媒体を活用したPR、有名人の活用といった意見も出ておりますので、行政の範囲からはみ出さない程度で、意見を反映させていきたいと思っております。内容が固まりましたら経済審議会で概要をお示しすることと思っておりますので、お待ちいただけたらと思います。
会長	岡村委員も策定委員会に参加されていますが、いかがでしょうか。
岡村委員	藤本委員がおっしゃったとおりですが、その中でも観光をデザインするというアイデアが出てきて面白いと思いました。今までは市の職員と話しながら形にしていたものをプロの手によってデザインしてもらい、江別市を格好良く見せるという案が出ており、今後素敵な形になっていくのではないかと思います。

会長	農業においても格好良く見せるということに注力している団体がありますので、いかに格好良く見せるかというのはポイントになると思います。
会長	続きまして次第1(2)の協議事項「第5次江別市農業振興計画策定について」事務局より説明願います。
農業振興課長	<p>「第5次江別市農業振興計画の策定について」ご説明いたします。</p> <p>本件につきましては、前回の当審議会におきましていただいた修正点について、改めてご審議いただき、12月に実施を予定しておりますパブリックコメントにて公表と進めてまいりたいと考えております。なお、本日の審議会がパブリックコメント前の最後の審議となりますことをご承知おさください。</p> <p>まず、第1章「1計画策定の趣旨」において、現況の価格高騰について農業分野において詳しく説明すべきという議論がございましたので、「肥料、飼料など」と付記しております。続いて「5第4次計画の目標達成状況」において、新計画の策定には前計画の評価が必要ではないかというご意見を基に追記いたしました。内容としましては、4つの項目に対し、前計画における現状値、前計画の目標値、直近(令和4年度)の実績値を記載し、その下に達成度合い等の説明文を記載しております。</p> <p>続きまして、第2章「1江別市の農業の概要」(2)農畜産物において、主要家畜の部分として、「鶏」を付記しております。</p> <p>続きまして、第3章「2基本方針の体系」において、計画策定にあたってのアンケートの対象者を記載すべきというご意見を基に対象者を追記しております。続いて「3展開項目と方向性」(3)持続可能な農村環境づくりの①環境保全型農業の推進の今後の方向性において、本市が令和5年6月に「ゼロカーボンシティの宣言」を行っている背景から、脱炭素社会の実現に大きく寄与するものと考え、赤字の文言を付記しております。最後に「4計画の進捗管理」において、いくつか修正をしております。まず、上段の「農畜産物の販売実績」において、道央農協と調整をさせていただき、具体的な数字はまだ固まっていないのですが、現状から増加する方針ということで、成果指標を追記しております。次に「グリーン・ツーリズム関連施設の利用者数」においては、別計画である「農村滞在型余暇活動機能整備計画」で施設整備を予定している方々との調整で、現状の622,025人から増加の68万人を目標値として設定する予定でございます。こちらについては、数字が確定した段階で記載いたします。最後に「多面的機能支払交付金の対象農地面積」において、具体的な数字はお示しできないのですが、基本的に農地面積を減らさないということを目指しておりますので「維持」と記載しております。</p> <p>主な変更点は以上でございます。</p>
会長	只今の説明に対して、ご質問やご意見等ございましたら、お受けしたいと思います。
青山委員	第1章「5第4次計画の目標達成状況」にある「農畜産物の販売実績」の「農産物」を「江別市の農業」と照らし合わせて、第4次計画開始前5年間と開始後4年間の数値を見たところ、平均すると3割程度増加しており、特に第4次計画が開始したあたりから段階的に増加しております。その分析を行ってありましたら、今後に繋がることもあると思いますので教えていただきたいです。
農業振興課長	道央農協に計画策定にあたって伺ったところ、第4次計画開始後の4年間においては、コロナ禍を若干挟んだものの道央農協としては、過去一、二を争う販売実績だったと聞いております。前計画時期は非常に天候に恵まれ、順調に生産が行われ、それに伴って道央農協の販売実績も増えていたのですが、令和4年度から今年にかけて夏場の渇水が続き、生産そのものが難しくなり最終的な実績としては落ち気味ということで聞いております。
青山委員	非常に短期間で、明らかに実績が伸びているように見えたので、転作やブランド化の成功等の要因があるのではないかと感じ、伺った次第です。
会長	今ご指摘のあった点は確かにあると感じます。最近で言うと、スイートコーンやブロッコリー等の新規作物、高収益作物の作付推進が功を奏した結果だと思えます。ただ、産地間競争が激しくなってきていますので、今後の対策を講じていくことが必要になってくるかと思えます。
会長	当事者である岡村委員はいかがでしょうか。

岡村委員	2023年度の目標金額ですが、現状では厳しいですね。
農業振興課長	令和4年度が50億円を切っていますので、それよりも下がるのではないかと考えております。
岡村委員	今年度は主力のブロッコリーを含め野菜全般の収穫量が半分以下になるのではないかと思います。お米も取れてはいても等級が下がっており、どの作物もまともに収穫ができていません。新聞では落花生とサツマイモが取れているというお話も出ておりましたが、江別市内で専門に栽培している人がどれだけのいるのかという話になります。それを踏まえると、2023年度の目標値が希望を持ちすぎていたと感じました。今も厳しい状況が続いており、農業者にとっては厳しい年になるだろうなと感じております。
会長	当事者である西委員はいかがでしょうか。
西委員	酪農関係も同じような現状です。乳価自体は上昇しましたが、飼料・肥料の価格高騰や猛暑による牛のストレス等の理由から乳量が下がってきていますので、今年の収入は厳しいものになってくると思います。水田活用の直接支払交付金が令和9年度以降交付されなくなるかもしれないほ場もあるので、その影響で耕作放棄地が増えることを農業委員の立場で懸念しております。目標値に向かって皆頑張っていると思いますが、気候に対しては品種改良や作付する作物自体も考える必要があると感じています。
会長	西委員から説明がありましたが、やはり今年度の収穫状況は厳しいとのことでしたので、道央農協のデータに加え、当事者の皆様の実態を伺い、場合によっては数値のアレンジが必要なのではないかと感じました。例えば米の作況指数につきましても、過去のデータを基に算出されますので、当事者の方々の状況を踏まえて作成しないと現実的なデータから乖離してしまうのではないかと思います。直近の実績を踏まえて、目標値をアレンジするというのも1つの方法かと思えます。それが計画策定時までに関に合わないようでしたら、2年目あるいは3年目の時点で、現状に合わせた形で目標値を見直すといった対応も必要かなと感じました。
会長	他に何かございますでしょうか。
伊藤委員	神奈川県厚木市の農業振興計画を確認したところ、農業所得の向上対策の金額が記載されており、農業従事者1人当たりの年間の所得や労働時間の目標値に向けて支援を行っていく旨の記載がありました。国の補助はあるのですが、江別市においても支援を行い、他産業従事者並の水準を目指すという金額の記載があれば良いかと思いました。
会長	所得目標が具体的に示されているということですが、それは認定農業者の所得要件ではないでしょうか。制度が確立された当初は700万円という基準があって、その後、地域の実態に合わせて変えてよいということになりました。また、いくつかの営農類型を策定して、類型ごとに所得目標を設定している市町村や農協もあります。厚木市もそのような制度の関係でお示ししたのではないかと思います。
農業振興課長	今回は、計画ということであくまで全体的な概要の指標を定めているところでして、計画とは別に法律に基づいた農業の経営基盤強化促進基本構想の策定は進めております。今お話に挙げた部分につきましても、そちらで記載しておりますので、計画の方には記載していないことをご理解いただければと思います。
会長	確かに所得目標の提示は重要だと思いますが、様々なケースが考えられますので、実態を反映した形で策定を進めていただければと思います。
会長	その他ございますでしょうか。

副会長	今年度末にパブリックコメント等を経て、第5次農業振興計画が固まった後に計画に基づいて様々な事業や施策を行っていただけのではないかと思います。その中で食育への活用等、行政の事業以外の部分での計画書の活用や市民向けのPR等は想定されているのでしょうか。
農業振興課長	まずは、今お話を挙げた食育については、別の策定委員会の中で「食育推進計画」を策定しております。その中で定められた市の方針を進めるための施策等のPRは当然していきますが、計画そのもののPRはあまり想定しておりません。計画の中ではPRやイメージアップについて触れておりますので、そちらを重点的という話になりましたら、検討していかなければならないと考えております。
副会長	計画そのものを活用ということではなく、これから個別に進められることの根拠という理解でよろしいでしょうか。
農業振興課長	おっしゃるとおりでございます。
副会長	市民公募委員である光永委員はいかがでしょうか。
光永委員	計画案27ページの⑥デジタル技術の活用のグラフ「スマート農業の導入について」ですが、「導入する予定はない」が45%であり、私は高いと感じ、導入コストや情報通信基盤、人材確保等の課題があるのではないかと考えております。江別市としてはどのような要因が大きく、現状どのような対策を行っているのか、またこれからどのような対策を行っていききたいか教えていただきたいです。
農業振興課長	私どももアンケート結果を確認し、高いという印象を受けまして改めて分析を進めた結果、ベテランの年齢層の方々はこれまでの設備投資の中で生産技術の確立と収益の確保ができており、デジタル技術等の導入への意欲は低いことがわかりました。逆に30代から50代までの方々は導入への意欲が高いこともわかりました。 ただ、今後農業の施策を進めていく上で、省電力化や効率化、担い手不足の解消のために、市としてスマート農業を推進しなければならないと感じているところですが、具体的な技術が整っている部分と整っていない部分がございますので、現状は国の事業等を使って課題の解決を進めながら、江別市には農業形態が耕種、酪農、畜産と様々ありますので、どこに注力すべきか生産者の意見を聞きながら模索しているところでございます。
会長	当事者である岡村委員もスマート農業等にご意見ございましたらお願いいたします。
岡村委員	計画案27ページに「今後、農業者への情報提供及び意向把握に努める」と記載があり、国や道の補助金に対する案内やドローン等の資格取得に関する情報提供ということだと思いますが、計画案24ページでは「国や北海道の補助金制度を活用し」と相違がありますので、その部分を明確にした方が良いか感じました。
農業振興課長	現状江別市ではスマート農業に特化して補助する制度は持ち合わせておりませんが、これまでも国の補助制度を活用し、スマート技術の拡大を進めております。ただ国や道の補助制度は年度単位で募集・申請を行い、優先順位がある中で採択されるのですが、令和6年度においては、スマート農業に特化した補助制度も始まったと道央農協を通じてお話がありましたので、生産者の方に向け、周知を行ったところです。 また、ドローンにつきましても、補助制度がございますので、個別の相談は勿論、周知に努めたいと考えております。
岡村委員	加えて、今回計画を読んで感じたのは、江別市では小麦やえぞ但馬牛等を支援していますが、それ以外の農産物や技術に対する支援はないのでしょうか。

農業振興課長	<p>利用実績は低いですが、農業振興資金という制度があります。ただ、民間の支援でもっと有利なものもございまして、そちらを利用される方が多いというのが現状です。市としても、このままで良いのかという認識は持っておりますので、検討しなければならないと思っております。また、短期的な緊急支援をしなければならない部分につきましては、道央農協の要望も含めて、協調をしながら肥料や飼料の価格高騰に対する支援を実施したところでございます。それでも経営が苦しい状況は把握しておりますので、国や道の制度を利用しながら、足りない部分を市として検討していかなければならないと感じております。</p>
会長	<p>私も農業に関わる身として、江別市の基幹産業である農業に対してサポートをお願いしたいと思います。気候の影響による収量の減少等、毎年降りかかってくる問題は異なりますので、柔軟性のある助成金の制度等を準備しておくということも重要ではないかと感じました。</p>
会長	<p>スマート農業に関しまして、西委員はいかかでしょうか。</p>
西委員	<p>岸田内閣総理大臣がスマート農業を進めていくという話で、ソフト事業はある程度進められますが、江別市の農業は、昭和43年に新規開田がなされ始めたという背景から耕地面積がバラバラで全体的に小さくなり、ハード事業があまり進んでいません。スマート農業をハードの部分で取り入れるためには、そういった部分から改善していかなければなりません。ハード事業を行うためには時間や費用がかなり掛かりますので、補助金をすぐに使うという話にはなりません、国や道の補助も見つつ、少しずつ改善していただければと思います。</p>
農業振興課長	<p>おっしゃるとおり、江別市は水田が元々多くありましたが、国が米余りを受け、米を作らなければ助成金を支給する形で生産調整が行われてきました。現在は、生産者の方々の努力により米以外の小麦、大豆、野菜というような作物が発展しておりますが、背景には助成金があるような状況でございます。このように本来は水田である場所で畑作物を作っている方は、江別市内でも多くいらっしゃいます。そういう中で、国は広範な作物を継続して作るのであれば畑地化するという施策をここ1、2年打ち出して進めているのですが、今年度の予算が全国の生産者の要望に対して、1割程度にしか満たないという状況でございます。生産者の方々も国の制度に応じて生産体制を定めたいけど方向性がなかなか定まらないというように苦慮されており、我々も方向性をお示したいのですが、変化が読めないといった状況であります。</p> <p>経営を安定させつつ、収量を取り、補助も受けられるようにと皆様ご苦勞されている中で、市として何かするべきだという意見は当然だと思いますが、我々は国がどこに重点を置いているのかという部分が重要だと考えております。皆様の協力の下で、国の政策に則って市として施策を進めるという考えです、情勢を読んでいるという現状をご理解いただければと思います。</p>
会長	<p>おっしゃるとおり、農業に関わっている方々も色々苦慮されていると思いますので、市から道、国に対して、農業に携わっている方々の意見を発信する機会も必要ではないかと感じました。</p>
会長	<p>全体を通して何かございませんでしょうか。</p>
会長	<p>本日のご意見等に基づく修正案につきましては、12月からパブリックコメントを実施することから私に一任していただき、事務局と調整の上作成いたします。また1月下旬から2月上旬に第4回経済審議会を開催する予定ですので、その際にパブリックコメントの結果等を踏まえ、事務局から改めて修正案をご提示いただきたいと思います。</p>
会長	<p>次に、次第2のその他につきまして、事務局から何かございますでしょうか。</p>
農業振興課長	<p>今後の進め方について、ご説明いたします。ご審議いただいた農業振興計画修正案ですが、11月17日の経済建設常任委員会にて本日の結果を報告する予定でございます。その後、12月中にパブリックコメントを実施し、その結果を踏まえて、年明けの第4回経済審議会にて修正案をご提示いたしますので、再度ご審議いただければと思います。日程等は後日事務局よりご案内いたしますので、その旨あらかじめご了承いただければと思います。</p>

会長	他に何かございませんでしょうか。
各委員	なし
会長	閉会のことば